

昭和区社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画
第2回策定委員会・記録

日 時 平成20年7月8日(火)午後2時～4時30分
場 所 昭和区在宅サービスセンター 2階研修室
出席者 16名

<委員紹介>

新しく作業部会から4人、専門職部会から2人の方に入っていました。

<報告事項>

1 経過報告

[資料1]

資料を元に説明しました。

<協議事項>

1 整理されたてきた課題

(1) 6つの課題について

[資料2]

○学区計画を推進協で作成してみるようになった。第1回目のワークをすでに実施し、学区の中で策定委員会を設けて推進することになった。学区の中ではすでに部会に分かれて交流活動や子育てサロンの推進もやっている。それらのことも盛り込んで計画にしたい。

○昭和区には乳幼児の子育てサークルが少ない。自分たちで作るというより、あるものに入っていく母親が多いと感じる。

昭和区の中でも東部と西部で違いはある。東部には生涯学習センターがあるが、西部には集まる場所が少ない。

○所得のある世帯も多いとのことで、今あるサービスの中から買うという発想があるのかも。

○老々介護とはどういう意味か

○65歳以上の夫婦間、65歳以上の子が親をみる、80代の親が若年性認知症の60代の子の介護をするなど、大きくわけて3パターンある。

○本来、ボランティアなどやりたい若い人はたくさんいる。実際に学生などが活躍もしている。みんなが、少しずつ何かをやれば、ボランティアになる。

○町内の課題もいろいろある。独居老人宅に火災報知器をつけるにしても手をさしのべてもお金など限界もある。

- 施設利用者への偏見は多い。精神障害者は来てもらっては困るという具体的な反対の声もある。障害への偏見もまだまだある。
- 「福祉意識」のところで「差別と偏見」という言い方があるが昔の言い方では、差別はしてないと言われるので「差別」ではなく「無理解」という言葉にしてはどうか。
- 障害者への共感・理解ができないという意味で「無理解」という言い方はある。また、障害者だけの理解ではなく他者を理解するということが大事。お互いに理解しようとしないうちもある。
- 施設の地域移行に「理解」はとても必要。
- ボランティアは先駆的な活動。ルールにのるだけでなく、自分の身の回りにあったことは、明日はわが身という視点があれば、何か起きたときに、この指止まれという人はいる。そこに誰かが少し止まれば発展する。遠くからボランティアが来て何かやるのではなく近くで助け合う。
- 障害者施設は遠くならいいが、近くにくるのは反対という動きが昭和区にある。仲間外れになりたくないのも安易に反対している人もいる。
障害者は本当に怖いものか？実際に起きている凶悪な犯罪の犯罪者は、精神障害でもなく普通の人何かあるとキレてしまうというケースも多い。施設にいる障害者は自分の病気と戦っている人でサポートがあれば頑張れる人。ボランティアの考え方の人が増えてほしい。
- 意識を耕すことが大事だが、同時に難しいことでもある。
- 障害者に対して偏見と言うより、どう接していいかが分からない。
家の近くで障害者が自立して生活しているが、どう声をかけていいか分からなかった。
(その人は声が出せないのも意思疎通がない。)
若いボランティアがいる時は挨拶するようにしていたが、一人だと声がかけれない。
ある日玄関で30分くらい一人でずっと止まっていたのでどうしたのか聞いてみた。
はっきりと言葉はなかったが携帯を落として困っていることが分かった。それ以降一人でいる時にも挨拶をするようにしている。
理解したくても、どう理解していいのかわからないだろう。逆の意味で偏見で見ないでほしい。手段・方法がわからないだけ。
施設建設反対運動にしても理解をしていないのではなく、きちんと説明がなかったこともある。どうして作りたいのかわからなく、上から来たことがボタンのかけ違い。住民は冷たい人ばかりではない。
- 双方がどう理解し合うかを大切にしていきたい。

(2) 専門職部会から出た課題について

[資料3]

- 高齢から生じる問題が多かったので高齢者の事例検討に偏った。
昭和区は障害者に関しては、施設の窓口は他区に比べてまだあるが、それぞれは縦割り。他機関のことはよくわかっていない。ネットワーク、連携が大事だと分かった。
- 高齢者の事例検討が少なかった。障害があって育っていく段階の人の問題や親の問題。障害児は学校にいるのか、うけとめられているのか、一緒にいることで、理解されていくといいと思う。
地域の中で一緒に暮らしていくにはそれぞれが声が出し合えるようになるといい。連携がとれていないのもよく分かった。

- 障害者は外に出ない。本人や家族が隠す。もちろん地域の障害者への理解不足もある。双方が会い、話しあえる場があるといい。相互理解が必要。
- 障害を隠すのは親のエゴ。社会的理解がなく、見られるのが恥ずかしいと思っている。お互い理解が広まればいい。民生から活動をしてくれるといいのでは。
- ライトハウスの人が白杖をもって歩いていると子どもも気をつける。地域で施設の祭りを開放している。

- 問題発見の糸口。発見されてから民生や医療はどうするか、連携のシステムが必要。公的サービスから外れると、費用負担がかかるという課題もある。
- 申請主義で何でも自分から言わないとやってもらえない。
困ったら向こうから手をさしのべてほしい。あまり困っていない人の方がよく制度を知っていて活用しているのでは。
- 事例8（虐待）はもっとある。
早く発見できればというのはあるが、民生委員の負担は大きい。発見はもっと小さい単位の町内や組でないと入って来ない。
高齢者でも近所に家族やヘルパーがいても盆暮れなど家族がいなくて電話をかけてくる高齢者がいる。ご飯を持っていくが、気に入らない時もある。
最近警察など権限をもって虐待ケースに関われるようになった。でも不登校・引きこもりなどの問題は口が固い。どこかの組織で困ってしまう。
情報が入っても次のステップが必要。
- 助け合いの仕組み作りにとりかかっている。240軒世帯の町内にいる高齢者・障害者・子どもなど災害時一人で逃げられない人をリストアップしている。みんなが認めている弱者はいいが、上がってこない人もいる。リストアップした人に家庭訪問すると中にはどこも悪くないと、拒否されることもある。それでも明らかに助けが必要な人は把握しなければと思う。
- 住民がキャッチした発見を専門職にどうつなげるかも大事。

2 整理されてきた理念

[資料4]

- 「笑顔であいさつ」とまで言わなくても「日常的にあいさつをする」が良いのでは。
- あいさつが強要であってはダメだという意見も作業部会で出た。

<審議事項>

1 今後のとりくみについて

[資料5]

- 地震はかならずやってくる。町内・となり組の体制はあまりとれていない。プライバシーの保護で情報をもっていない。災害に対する取り組みはどこに入るのか？
- 災害後3日間は行政がなかなか機能しない。行政は助け合いのしくみづくりを拡大して近所同士の助け合いを推進し、各学区で防災講座もしている。プライバシーは確かにある。過剰になっているが、法があって出せない。地域の中での名簿作りをすることによって地域づくりにつながる。
- 行政とすり合わせながら、計画に入れていく。町内・自治会のことも入れたい。

- 更生保護（犯罪を犯した人への差別・偏見という問題）もどこかに入れるのかどうか。
- 社会福祉士法、福祉士養成に更生保護も必要。この計画でどこまで広げるかは検討。

- 区内に実際に差別が残ったまま（施設反対運動）、計画の策定をするのか。ビラがはられたままの状態ですていくのか。少数の人も視野に入れてほしい。
- それぞれの立場もある。総論で理想だけ言うのではなく、どんな手だてをつけていくのかを検討していく。
- 意識・理解・情報の前に立ちはだかるのは無関心。まず関心をもっていただくためにどうしたらいいのか考えてほしいと思う。

- 他の作業部会などで住民が色んな事を考えていることはよく分かったので、専門職部会にも伝えたい。
今後もそれぞれの途中経過を12月までの間に交換できればよいと思う。
専門職は、別の地域に住んでいるが、昭和区の住民が実際に生活して何に困り、どう解決しているのかを知りたいと思う。